

はばたき

平成27年

3月31日

第88号

発行者 社会福祉法人 新生会 障害者支援施設 第二新生園 菅野 八重子
岩手県紫波郡矢巾町大字太田 17-54 TEL(019) 697-8011 FAX(019) 697-8013



主な内容

- 施設長より..... P2
- グループホーム..... P3
- 給食委員会・支援一課..... P4
- 支援二課・就労継続B型..... P5
- 行事写真 P6~7
- 異動 退職職員..... P8

第23回 第二新生園祭の一場面です。とても天気が良く、地域の方をはじめとする多くの方々のご協力をえて、大盛況に開催することができました。利用者の皆様も準備段階から張り切って活動できた行事です。

二十六年度を振り返って

施設長 菅野 八重子

三月に入り、暖かな日差しがふりそそぎ、玄関前の凍っていたピオラが赤や黄色の花を咲かせ春の息吹を感じます。今年の冬は、第二新生園におきましては、インフルエンザやノロウイルスの集団感染もなく、八十四名の利用者の方々は、お元気に過ごされました。

二月七日は、矢巾町太田農事交流センターで開かれた「太田地区厄払い歳祝い」に参加し、四十二歳の厄払い(二名)、七十歳の喜寿祝い(一名)を住民の方々と一緒にお祝いしていただきました。終始笑顔で神事でお祓いをしていただき、記念撮影の仲間入りをしました。

今年度を振り返りますと、十月二十六日に開催されました第二十三回第二新生園祭が思い出されます。新生会の理念「輝く命」をみんなで和ーわーWAW! をテーマに利用者を中心に地域の方々、保護者会、職員等の

四者が一体となったお祭りとなりました。早くから四者で実行委員会を結成し太田自治会の全面的なご協力のもと盛大なお祭りを開催することができました。

地元の不動産保育園児のお遊戯をはじめ不動産の小中学生からおじいさん、おばあさんまで障がいの有無にかかわらず、それぞれのもてる力を発揮することができたお祭りとなりました。地元の野菜提供者によるミニ産直、児童民生委員や女性部、青年部の方々は、食堂係や喫茶係、販売係を引き受けてくださり、保護者会はバザー係を担当しました。地元には伝わる民芸品の展示や伝統さんさ保存会のみなさんの参加もいただき、回を重ねるごとに地域やボランティアの輪が広がり、矢巾町太田地区が、障がいのある人もない人も共に学び共に生きる町づくりを担っていたに感謝申し上げます。

次に十一月七日に福祉サービス第三評価を受審することができました。岩手県が定める八十項目のサービス基準に基づいて当園が提供するサービスを評価していただきました。

平成二十六年度の受審にむけて、平成二十四年度後半からサービス委員会を設置し取組みを開始しました。総務・入所・通所の三グループに分けてガイドラインの読みみや研修会を行い、自己評価を実施しながら受審に繋げることができました。個人、チーム、施設全体の取組みを通して、福祉サービスの標準化を確認するとともに、当園の提供する福祉サービスの現状と課題を共有できたことは、職員研修の機会となり、第三者評価の受審の成果だと思えます。今回の結果を踏まえ、改善課題が明確になりましたので、今後改善計画を立て、更なるサービスの向上に向けて取り組んで参りたいと思えます。

次に第三期計画の最終年にあたり、生活介護事業を利用する方々の障害の多様化に伴う環境の整備が緊急となり、生活介護

棟の整備案をまとめたところで。また、施設入所支援をご利用の方々の高齢化や身体機能の低下により、段差の解消や洗面所及び風呂場等の改修が必要となっており、築後二十六年経過し老朽化した建物の施設整備や大規模修繕が必要となっております。計画的な対応が望まれます。

第二新生園の利用者の方々は、自然豊かな田園風景の広がる太田地区が第二のふるさととなっております。高齢化が進む中で、「第二新生園で生活できてよかった」と思われる施設づくりに職員一同努めて参りますのでよろしく願います。



グループホームの生活

新生ホーム生活支援員 阿部 由美子

共同生活援助事業所 新生ホームは、四つのグループホームで、現在 男性二十五名 女性四名計二十九名の利用者が、入居しています。室岡・アンダンテ新田・中島・見前それぞれのホームで生活しており、所長をはじめ生活支援員三名、世話人八名、夜間世話人六名の十八名の職員で支援・対応にあたっています。

平日は、法人内外の日中事業所へ通所しています。休日については、自室で好きなことをしたり、個々で買い物に出かけるなどをして過ごしております。

新生ホームの特徴の一つとして職員同行での買い物支援や余暇支援が多いことがあげられます。事前に利用者の皆さんから希望を伺い、少人数での日帰り旅行へ出かけたり、利用者全員でのクリスマス会や飲食会・カラオケ会など、一年を通してイベントが盛り沢山です。

グループホームは、自立した

方が入居する施設と思われがちですが、利用者の状態に合わせた入浴・排泄・歯磨きや服薬など、きめ細やかな支援を提供しています。

簡単な紹介となりましたが、ホームの生活が少しでもご理解いただけたら幸いです。



グループホームに入居して

伊藤 美佳子様

日頃のご指導、親身なお世話をいただき心から感謝の気持ちでいっぱいです。

早いもので娘が室岡ホームにお世話になって五年になりました。入居前は今までの生活形態とも変わってしまう為、戸惑いや不安でいっぱいでした。また、すでに入居している方との関係作りが大きな不安要素でもありました。でも、少しずつ皆さんのお世話になりながら、なじんできたようです。娘は、自室で好きなテレビ番組を見て、美味しい食事を皆さんと食べられる事がとても快適なようです。

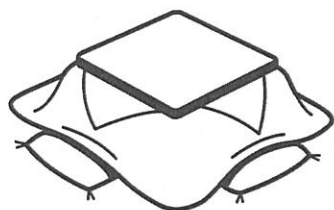
ホームという自宅から第二新生園に通所するという生活形態に変わって一番感じる事は、手前味噌ながら、日々の生活に向きになり生き生きとし、会話の中の何気ない一言に人を気遣った言葉があったりします。

思いもよらなかった変化です。色々な人と関わる事やホーム

の生活の中で適度なプライバシー空間を確保されるので気持ちが穏やかになったのでしょうか？生活環境の変化は、娘の気持ちまでも変えてしまったみたい

です。一日一日を、明るく、安らかに生きられる事が一番の幸せだと思います。

これからも、この環境で過ごしていければ幸いです。



給食委員会より

栄養士 木村 敦子

今年度より、給食委員会の会議に利用者代表が参加することとなり、直に利用者の意見が反映される会議へとパワーアップしてきます。

『自分で選べる食事が良いなあ』との意見を受け、昨年度は二回だけの実施であったセレクト献立を今年度は回数を増やして提

10月・・・かぼちゃプリン

又はかぼちゃタルト

11月・・・パン(あんバター)

又はピーナッツ

1月・・・今川焼き

(あん又はクリーム)

2月・・・おかめうどん

又はおかめそば



〈パン給食〉



〈給食委員会の様子〉

供し好評でした。特にパン給食は再提供の希望がでるほどでした。冬期間は、感染対策のため外出が規制されることもあり、給食委員会での活発な意見を取り入れ利用者さんが楽しめる給食提供をしていきたいと思えます。



支援一課の一年

主任 佐々木 薫

春(4～6月)

心地よい陽気に誘われ、お散歩へ。

夏(7～9月)

暑い外。涼しい食堂。でも、お散歩へ。

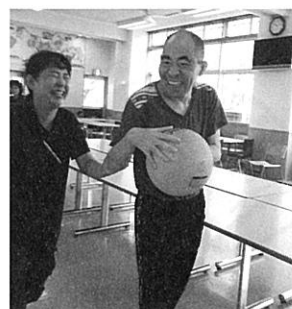
秋(10月～11月)

今年は園祭。お散歩お休みで作品作り。

冬(12月～3月)

積もる雪。積もるストレス。やっぱり、すっかり、お散歩。そして、また新しい春がやってくる。

昨年度に引き続き日中活動は、作業活動、毎月のお楽しみ会(お花見、スイカ割り、ハロウィン)



ンパーテイ、クリスマス、書初めなど)、作業実習を取り入れ実施しました。作業活動に真剣な姿やレクリエーションで楽しんでいる姿など様々な表情を見ることが出来ました。また、今年度は、職員体制が十分に整わないことで、利用者の皆さまには日課の変更等でご迷惑をかけた一年でした。そんな中でも、大きな事故や怪我がなく過ごせたことは皆さんのご協力のおかげだと感謝しております。第三者評価の受審によって自分達のサービスの内容が今どのレベルにあるか、何が足りないのか、何をさらに発展させればよいかといった職員共通の認識を持つことが出来ました。今後は、課題となった項目を課内の職員が共有し、改善に向けて努力していきたいと考えております。

支援二課の一年

主任 佐々木 潤

今年度は、前年度同様に、毎週火曜日、木曜日にグループ活動として、あおぞら班、たいよう班、ほのぼの班の三グループに分かれ、作業的な活動を行いました。また、その他の曜日は余暇的な活動として、レクリエーションを主に行ってきました。特に今年度は園祭があったため、グループ活動のたいよう班では、ビーズ作品に力を入れ皆頑張った作品を作りあげられました。その他の余暇的な活動としては、六月にボウリング大会を行い、クリスマスや節分など



の現実に
向けて、
職員体制
の工夫を
図ってい
きたいと
思います。



季節に応じた活動も行ってきました。しかしながら年々外出行事が減少しているのが現状です。外出行事は利用者の方々も楽しみにされている事もあり、多くの実現に

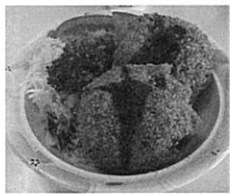
就労継続B型の一年

課長 芳賀 淳

就労継続B型事業では、日々、農作業の他、野菜の下処理・選別・シール貼り、箱折り等の受託作業



に取り組んでおります。今年は入所利用者、生活介護2利用者も含めたじゃがいも収穫祭



の開催及び収穫したじゃがいもをコロッケにして給食で提供してもらい、みなさんにおいしく食べていただくことができました。また、受託作業も一昨年

ひとりの作業レベルが少しずつ上がってきております。外出については行事としてのほか、今年から例会にて皆さんから外園に対しての要望を聞き取る時間を設け、オープン日にその要望に定めるよう取り組み始めました。そして、多数の要望の中からカラオケボックス外出等実施し、利用者の笑顔につながりました。これからも数多くの要望に応えながら作業とともに生活の充実も図っていきたいと思います。



旅行 サファリコース

花巻の志戸平温泉に一泊。温泉にゆつくり入り、お料理やカラオケを楽しみ、翌日のサファリ体験ではバスの中から動物たちを間近で見る事ができました。笑顔や半べそ顔、真剣な顔、とたくさんさんの表情が見られました。



第二新生園祭

二年に一度の大イベント『第二新生園祭』の様子です。地域の方、保護者の方、利用者の皆さん、たくさんの方々にご協力をいただき、晴天にも恵まれ、大盛況のお祭りとなりました。



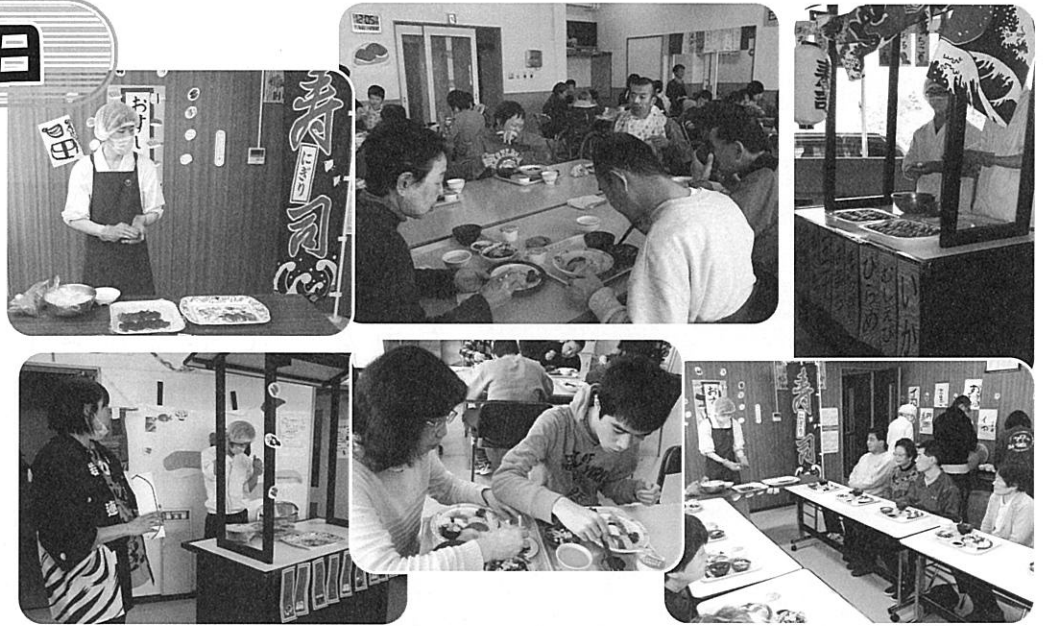
旅行 夏油コース

スーパーでの買い出し、野外炊飯、花火など、夏ならではの旅行です。日常生活から離れ、大自然の中、元氣いっぱい活動できました。



寿司の日

年に一度、園に寿司職人さんを招き、目の前で握ってもらったお寿司を保護者の方とともにいただくという利用者さんがとても楽しみにしていた行事の一つです。握り立てのお寿司を食べている利用者さんと保護者の方々の微笑ましい場面がたくさん見られました。



日帰り旅行 森の風コース

近場ながら、美味しい料理を堪能し、フラワーガーデンで自然の中を散策しました。ゆったりとした中にも、利用者さん達の満足そうな笑顔がたくさん見られました。



豆まき会

入所支援、通所生活介護、就労B型と3事業所がそれぞれ工夫して開催した豆まき会の様子です。鬼にふんじた職員の張り切り様に利用者さん達もびっくりされていました。



五年間ありがとうございました

施設長 菅野 八重子

二十二年四月、八十五名の素敵な笑顔と出会い、あつという間に五年間が過ぎてしまいました。

園祭、一泊旅行、すてきなパーティと楽しかった思い出が浮かびます。二十三年三月十一日の東日本大震災は、電気が消え断水の中、利用者と職員一体となって不安な気持ち乗り越えました。利用者のそばにはいつも献身的な職員がいました。保護者会の協力の下、地元の矢巾町太田地区の方々に支



えられながら充実した日々を過ごすことができました。本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。皆様のお幸せを心より祈念申し上げます。



異動・退職職員

○退職

お世話になりました。

平成二十七年三月三十一日付

- 施設長 菅野八重子
- 生活支援員 鈴木 勝也
- 生活支援員 佐々木彩音
- 夜間専門員 高橋 和子
- 長い間、お疲れさまでした。

◎異動

★みちのく療育園で頑張ります。

- 主任生活支援員 佐々木 潤
- 生活支援員 三留 大典

◇みちのく療育園からきました。

- 支援一課長 野中 直子
- ワークセンターむろおかからきました。

職業指導員 阿部 雄一
よろしくお願いたします。



平成27年度 前期の行事予定

4月 歓迎会

お花見

保護者会総会

6月 チャグチャグ馬つ子交流会

7月 一泊旅行

8月 一泊旅行

まゆの里記念行事

夏季休暇

蜂神社祭典

編集後記

『春』はだんだん暖かくなり、寒くて緊張していた気持ちもやわらかくしてくれる季節。新しい出会いに気持ちワクワクする季節。でも別れの季節でもあります。

一緒に過ごした時間が長ければ長いほど、関わった深さが深ければ深いほど、淋しさが増します。若い頃は出会う数の方が多かったけれど、徐々に別れの数が多くなり、学生時代に習った四字熟語『一期一会』の本当の意味を知るような気がします。別れは淋しいけれど、次に会えた時、今よりも良い表情でお互いの話ができるように、一日一日を大切に生きていきたいですね。